

R03-I-15 「発達障害をもつ子どもの学習支援システムの構築」

課題提案者 進学塾TomoZemiグループ

研究代表者 看護学部 佐藤史教

研究チーム員 樋口日出子（看護学部）

<要旨>

本研究では、高校生の認知機能の特性と効果的・非効果的な学習方法を明らかにすることを目的に、高校生4名の認知機能と成績、現在行っている学習方法などについて調査を行った。その結果、最も高い偏差値を見ると、国語は事例3、数学は事例1、英語は事例4で、全検査IQが最も高いのは事例4であることから、今回の対象者においてはIQと偏差値は対応していなかった。このことから、認知機能の特性に応じた勉強方法や量が偏差値に影響する可能性が考えられる。また、自分の認知機能の特性に応じた学習方法を実践している事例も見られた一方、習得していない事例も見られたことから、一人ひとりに適した学習方法を指導していくことが必要であると考えられる。

1 研究の概要（背景・目的等）

2005年に「発達障害者支援法」が施行され、発達障害をもつ子どもに対する支援が教育現場において行われている。しかし、文部科学省（2012）は通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査を行い、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は6.5%に上ると述べている。さらに、授業時間以外の個別の配慮・支援を行っているかという問いでは、行っていないという回答が67.1%にも上っている。

このように発達障害をもつ子どもの教育的支援は学校現場だけでは難しいため、子どもの放課後の居場所の一つとして、放課後等デイサービス（以下、放課後デイ）が2012年に制度化されている。しかし、放課後デイが増加した一方、支援の質についての疑問も示されている。厚生労働省（2015）は、放課後デイにおいて提供される支援の内容は多種多様であり、支援の質の観点からも大きな開きがあると指摘がなされている状況にあると指摘している。

課題提案者は、これまで学習塾を経営し、学校教育外での教育に携わってきたが、近年発達障害をもつ子どもの通塾も増えており、これまでの教育方法では十分に成績の向上が見られないことも多いことを実感している。しかし、発達障害をもつ子どもの学習支援に対するニーズは高く、学校教育外での学習支援システムの構築が急務である。

研究代表者は、これまで発達障害をもつ小中高生が多く参加している小中高生向けSST（Social Skills Training；以下SST）を実施しており、その経験が発達障害をもつ子どもの学習支援に役立つと考えている。SSTは社会生活スキルトレーニングと訳され、ロールプレイなどを用いてコミュニケーション技能を高める認知行動療法である。SSTは慢性期にある統合失調症をもつ人を対象に始められたが、現在では精神科病院の他、教育現場や矯正施設等でも実施されている。

また、全国的に発達障害をもつ子どもを診ることのできる医師や支援者は不足している。さらに、岩手県は県土が広く、発達障害をもつ子どもに対する支援が十分ではない地域も多

い。そのため、発達障害をもつ子どもの学習支援システムの構築が急務であると考えられる。

令和3年度は、高校生の認知機能と成績、現在行っている学習方法などについて調査を行った。これは、高校生の中には自身の認知機能の特性を理解し、すでに学習方法を工夫している生徒もいると推測されたためである。

本研究の目的は、高校生の認知機能の特性と効果的・非効果的な学習方法を明らかにすることである。これらの調査によって、認知機能の特性と効果的・非効果的な学習方法を明らかにしていきたい。

2 研究の内容（方法・経過等）

1) 調査期間：2021年8月～2021年12月末

2) 対象

研究代表者が行っている小中高生向けSST（アイーナ事業）に参加している高校生4名。

3) データ収集方法

対象者に現在行っている学習方法と成績についてインタビュー調査を行った。また、WISC（Wechsler Intelligence Scale for Children）の検査をすでに受けている場合は検査結果の提供を求めた。

調査内容は、属性として、一日の学習時間と内容（平日、休日）、登校状況、通塾の有無を尋ねた。また、直近に受けた学校の試験の偏差値（国語、数学、英語の3教科）、直近に試験を受けていない場合は確認テストを行った。他に、WISCの検査結果、国語、数学、英語の勉強方法、勉強において工夫していること、苦手だと感じている勉強方法を尋ねた。

4) データ分析方法

対象者数が少なかったため、事例毎の比較を行った。

5) 倫理的配慮

(1) 対象者および保護者に対して本研究の目的、方法、プライバシー保護の約束、不参加や中断する場合にも不利益を被ることがないこと（小中高生向けSSTへの参加を拒むことは一切ないこと）を口頭と文書で説明し、

同意書の提出にて参加の同意を得た。また、同意書の提出後も撤回が可能であることを説明した。

(2) 得られたデータは、研究者がインターネットにつながっていないパソコンを用い、匿名で扱った。

(3) 得られたデータは岩手県立大学看護学部内の研究代表者の研究室の鍵のかかるキャビネット内に施錠して研究公表後10年間保存する。廃棄する際はシュレッダーを使用する。

(4) 事前に公立大学法人岩手県立大学研究倫理審査の承認を得た。(承認番号319)

3 これまで得られた研究の成果

・事例1

平日の学習時間120分、休日の学習時間180分、毎日登校、スタディサプリ

国語の勉強方法：先生が用意した「ワーク」を使って勉強し、週1回取り組み、先生に解説を聞く。漢字検定を受ける。覚えられない漢字は見る。例文を作って覚える。数学の勉強方法：スタディサプリを使って、授業の予習をしながら、学校の授業に臨む。何度も演習する。公式は見て一発で覚える。関数・グラフ・図形は似た問題を繰り返し解く。

英語の勉強方法：単語帳を使って単語を覚える。見て、しゃべって覚える。ドリルを使って勉強する。

工夫している勉強方法：繰り返し解く。間違えた問題は どうして間違えたか考える。試験の解き直しをする。

苦手と感じている勉強方法：特になし

偏差値：国語 35.1、数学 45.2、英語 43.1

WISC：全検査 IQ98 言語理解 103、知覚推理 98、ワーキングメモリー 88、処理速度 102

・事例2

平日の学習時間0分、休日の学習時間0分、毎日登校

工夫している勉強方法：ひたすら書く。

苦手と感じている勉強方法：見る、聞く。聞くだけだと抜ける、見るのがまだいい。

偏差値：国語 36、数学 43.8、英語 31.9

WISC：全検査 IQ112、言語理解 117、知覚推理 107、ワーキングメモリー 94、処理速度 106

・事例3

平日の学習時間120分、休日の学習時間180分、毎日登校、通塾（週1回）

工夫している勉強方法：ひたすら書く。

国語の勉強方法：漢字は見たり、書いたりする。

数学の勉強方法：何度も問題を解く。

英語の勉強方法：英単語はたくさん書く。

苦手と感じている勉強方法：見る、聞く。聞くだけだと抜ける、見るのがまだいい。

偏差値：国語 49.2、数学 42.9、英語 45.4

WISC：全検査 IQ103、言語理解 90、知覚推理 93、ワーキングメモリー 123、処理速度 113

・事例4

平日の学習時間120～180分、休日の学習時間240～300分、毎日登校

工夫している勉強方法：自分で調べる。見て、書いて覚える。30～60分と時間を決めて勉強、5分休憩を繰り返す。苦手と感じている勉強方法：長時間集中が難しい。集中力が続かない。

偏差値：国語 40、数学 40、英語 60

WISC：全検査 IQ125、言語理解 123、知覚推理 128、ワーキングメモリー 106、処理速度 103

考察

最も高い偏差値を見ると、国語は事例3、数学は事例1、英語は事例4で、全検査IQが最も高いのは事例4であることから、今回の対象者においてはIQと偏差値は対応していなかった。このことから、認知機能の特性に応じた勉強方法や量が偏差値に影響する可能性が考えられる。

また、自分の認知機能の特性に応じた学習方法を実践している事例も見られた一方、習得していない事例も見られたことから、一人ひとりに適した学習方法を指導していくことが必要であると考えられる。

4 今後の具体的な展開

今後、対象を増やして分析を行うとともに、協働研究を行った学習塾の塾長と今回得られた情報を共有し、今後塾で活用していく予定である。また、認知機能の特性に応じた学習方法に関するワークショップを企画していきたいと考えている。

5 その他（参考文献・謝辞等）

厚生労働省（2015）：放課後等デイサービスガイドライン

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihoukenfukushibu-Kikakuka/0000082829.pdf>

文部科学省（2012）：「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」調査結果

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf